

「第3回 阿武隈川上流緊急治水対策環境委員会」議事録（要旨）

日 時：令和5年3月15日（水）13:30～14:30

場 所：国土交通省 東北地方整備局 福島河川国道事務所 会議室（WEB 会議形式併用）

出席者：長林委員長、田端委員、高橋委員、黒沢委員、川越委員、堀江委員、丸山委員

～主な委員意見～

- ・この地域でマダケの利用が無いのであれば、治水上に悪影響を及ぼす外来種となるので、なるべく駆除できると良い。そのためには伐根の際に根茎を取り尽くす必要がある。一方で、伐根により根茎がダメージを受けることで生長を抑制している可能性もあるので、モニタリングにより要因を明らかにしてもらいたい。
- ・マダケがうまく駆除できた箇所があるようであれば成功事例の理由を蓄積していくことが望ましい。
- ・近い将来、衛星で一括管理できる時代が来ると思うので、通常の写真撮影に加えて、三次元データを取得することで後々有効活用できると考える。
- ・本来、土砂の再堆積と樹木の再繁茂はセットで考える必要があるので、冠水頻度や冠水時の摩擦速度をトータルで見て両者を検証していくかたちになっていくと良い。
- ・掘削後の再堆積や樹木再繁茂が議論の中心となっているが、掘削により洪水時の掃流力に変化が生じることで、思いもよらないところで局所洗掘が引き起こされることもあるので、今後、水理計算等を含めた検討も管理上必要になってくると考える。
- ・ここ2年間の間にサケの遡上が非常に少なくなってきた。今回の事業とは直接関係は無いが、水国の調査とリンクさせながらモニタリングを行ってもらいたい。
- ・摩擦速度に加えて、限界掃流力の観点から土砂の移動と砂州の堆積の関係を把握してもらいたい。
- ・今回のモニタリング計画案について了承する。